

剣道の魔法

全日本少年剣道錬成会館

吉田 大峻

合宿の前日、正直言うところには、行くのが嫌だった。剣道が嫌なのではなく、日本全国から選ばれて来た人に試合で負けてしまうと思っただからだ。しかも、初めてだったし、知っている人が誰も来ないから不安だった。

当日、錬成会館の玄関内に入ると、全く知らない人たちが集まっていた。すると、あち

こちから色々な地方の方言が聞こえて来て、ますます一人ぼっちの気分になった。

そしてけい古が始まった。礼法や、構えな

どで始まり、面打ちなど基本のけい古が多かった。ぼくは最初、もった掛かりげい古や、

相掛かりげい古、試合などをたくさんやると思っていたが、この合宿は剣道で大切な、正しい剣道を学ぶための合宿だと分かった。全国から集まった選手達は、面打ちは、速いし、きれいな動きだった。さすが各都道府県が

ら選ばれた犬た舌だなあと思った。

ぼくは、けい古を通して少しずつ他の都道府県の六年生と話せるようになった。夜は滋賀県から来た六年生のいる部屋に集まって遊んだ。それだけではなくたくさん話をした。例えは宮城から来た友達は、
「宮城は牛タンが五百円で食べられるよ。」
石川県から来た中学生は、
「石川県は日本海側だからおいしい魚が食べられるよ。」

栃木県の中学生は、

「栃木はみんな知っていると思うけどイチゴが有名だよ。」
など、みんな色々教えてくれた。ぼくは学校で都道府県について習っていた時よりも興味を持った。

四日前は知らなかった。た少いちがう言葉を話して、ちがう場所から来て、ちがう地域で育った人達と剣道を通じてすぐに仲間になれた。ぼくは思った。これが剣道の魔法だなと。

剣道は、強いとか弱いとかではなく、相手
を、うやまう精神が大事で、世界中の人たち
が心の精神を持っていたら、世の中から争い
はなくなると思う。今日の合宿のぼくたちは
のように、心が通じ合えば、世界は、平和に
なるだろう。ぼくは、この剣道の魔法を使っ
て、将来、世界中に剣道を広めて、人の役に
立つような仕事かしたいと思う。